



日本の宝物・富士山が、世界の宝物になる可能性が高まってきた。6月にカンボジアのプノンペンで開かれるユネスコの世界遺産委員会で、富士山が「世界文化遺産」として登録されるかもしれないのです。

皆さんは、どのような気持ちで迎えられるか。観光振興による経済的発展への期待や、登山客の増加による環境悪化の懸念など、世界遺産登録後に起こる様々な「光と影」に、期待と不安の気持ちがあ錯しているのではないのでしょうか。

過去に登録された地区をみると、観光客が激増して経済

### 「世界文化遺産」への登録



渡辺豊博さん

## 新たな制約に「覚悟」必要

わたなべ・とよひろ 1950年、秋田県生まれ。73年に静岡県庁に入り、農業基盤整備事業の計画実施などを担当。2007年に東京農工大大学院連合農学研究科で博士号取得。08年から都留文科大文学部社会学科教授。富士山学を研究する。身長183センチ、体重100キロ。ニックネームは「ジャンボさん」。

的恩恵を受ける一方、ごみの増加など環境悪化の被害が拡大し、観光振興と環境保全との「共生」のあり方に対して、複雑な問題を抱えているケースが数多く見られます。富士山の場合、登録後、どのような問題が起き、結果としてどのようなようになってしまおうのでしょうか。そのような将来像を、行政や市民の確かな予測・把握し、中長期的視点に立った恒久的・包括的な管理基本計画をまとめ、実効性の高い対応・対策を取っているのでしょうか。現在は、登録されることを優先した、行政主導・依存を推進する形になってはいませんか。

富士山が世界文化遺産に登録されるということは、信仰・芸術・景観に関して富士山に内在する類いまれな「普遍的価値」が、ユネスコが定めたクライテリア（評価基準）に適合した結果として登録されるものです。すなわち今後、環境基準も含めて国際基準で富士山は評価されることになり、当然、日本での慣行や制度の見直しが求められる可能性もあります。世界遺産登録の目的は「開発の抑止」であり、富士山に関わる多くの利害関係者には多様な制約が新たに課せられることに同意した「覚悟」の証しでもある。

現在、富士山では「入山料」の導入が目ざされています。環境保全のための安定的な資金確保とともに、入山者数の制限にねらいがあると思えます。海外の世界遺産地区では、管理者の一元化が入山料徴収の前提条件。様々な管理者の思惑があ錯して徴収者が一本化されていない富士山で、実効性の高い対策となるのか疑問です。

富士山では「入山料」の導入が目ざされています。環境保全のための安定的な資金確保とともに、入山者数の制限にねらいがあると思えます。海外の世界遺産地区では、管理者の一元化が入山料徴収の前提条件。様々な管理者の思惑があ錯して徴収者が一本化されていない富士山で、実効性の高い対策となるのか疑問です。

山で、どのようなセーフティネットを構築して次世代に引き継いでいくのか。その総合的・長期的・具体的な政策立案や課題解決への仕組みづくりが求められており、市民、NPO、行政、企業、専門家ら、様々な分野から多くの関係者が集まり、多様な視点からの議論と検討の場が必要とされています。

◇

都留文科大で「富士山学」を開講している私の視点から、原則月1回、富士山に必要とされる対策について、各地の世界遺産地区も参考としながら紹介、提案します。